

## 飛梅天満宮

新日吉神宮の境内社である飛梅天満宮は、梅の御霊と古代の学者である菅原道真（845-903）に捧げられている。この神社は、学者兼政治家として理想の存在である道真に対する崇敬の念から、後白河上皇（1127-1192、在位 1155-1158）が創建した。飛梅という神社の名前は有名な日本の和歌から取られている。この歌は、政府内の高官の位を追われて左遷された先で道真が詠んだものである。この歌では、死期が迫る中、東風が吹いて、愛する梅の香りを自分がある遠い九州まで運んでおくれ、というように道真が嘆願している。

天満宮という名前は、神社が道真に捧げられていることを意味している。天満宮は日本全国に数多くある。そのうち、京都市北西部の北野天満宮と、道真が流された九州の太宰府天満宮の2つが最も重要である。